

## 報告

## 第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ

北海道科学大学 保健医療学部 義肢装具学科 3年 佐井 志織

## 1. はじめに

2019年8月21日～23日に第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろが行われた。「リハ工と看護・介護」というテーマを掲げ、3日間にわたり様々なセッションが行われたため以下に報告する。

## 2. リハ工学カンファレンス

今回は車椅子関連を中心に多くのセッションが行われた。電動車椅子に必要なジョイスティックの提案や座面のクッションの提案など、工学の視点から見た際の提案や開発が行われていた。

また、「持ち上げない介護」と題し、介護者の負担を軽減することにより居宅介護を継続し介護される側の褥瘡や拘縮の予防をはかっている方の講演もあった。

セッションの他にも福祉機器展や企業展示、市民公開講座、大学生企画も行われた。この企画のほとんどは参加無料の公開企画のため、専門職の方だけでなく地域の方々の参加も数多くみられた。そのた

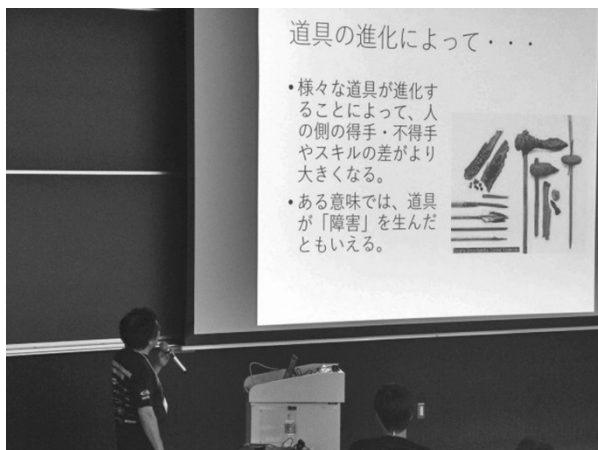


図1 セッションの様子

め在宅介護を行っている市民の方々に介護の現状や必要な情報を提供することができたのではないかと考える。

## 3. 学生企画

今回の大会では北海道科学大学の学生団体であるギソクラが学生企画を行った。企画内容としてはスポーツ用模擬義足体験、ボッチャ、チェアスラロームを3日間にわたりそれぞれ開催した。

この企画を通して、多くの方にスポーツ用義足、ボッチャ、スラロームの魅力をを知っていただくことができたのではないかと感じる。

## 3.1 スポーツ用模擬義足

ギソクラのメイン活動であるスポーツ用模擬義足の体験を取り入れた。学生が製作したスポーツ用模擬義足を使用し、歩いていただいた。普段義足にあまり馴染みのない方々が多く体験をしていただいた。今回は体験人数が多くは無かったが、スポーツ用義足について知っていただけるきっかけ作りになったと考える。



図2 スポーツ用模擬義足体験の様子

北海道科学大学 保健医療学部 義肢装具学科  
〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15-4-1

## 3.2 チェアスラローム

車椅子関係者が少なくない学会のため、チェアス

ラロームを企画した。この体験は、様々な椅子を使用し、複雑なコースをどれだけ早く進めるかを競う企画である。

スラロームの参加者としては、実際に車椅子を使用している方と介護者の方がとても多く感じられた。

電動車椅子、日常用車椅子、キャスター付きの丸椅子の3種類で行いタイムを競い合った。使用された車椅子は日常用車椅子が1番多く、電動車椅子がその次に多く使用された。

日常的に車椅子を使用されている方々は車椅子のコントロールがとても上手く、とてもタイムが早かった。特に顎でジョイスティックを操作するタイプの電動車椅子を常用している方は群を抜いてタイムが早かった。

この企画を通しての印象としては、まず、スラロームの認知が低かったと感じた。この企画を機にパラスポーツの認知が行えたのではないかと考える。



図3 チェアスラロームに使用された車椅子の例

### 3.3 ポッチャ

この企画もギソクラのメイン活動の一つであった。老若男女問わず、体験できるスポーツであることから、多くの方が体験に来てくださった。学生企画を行った3日間の中でも特に幅広い年齢層の方に体験

をしていただけたことができた企画になった。今回の体験を通してポッチャの魅力を伝えることにより、ポッチャを自社のイベントで行いたいと仰っている方が多かった。



図4 ポッチャ体験の様子

## 4. まとめ

2019年8月21日～23日に第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろが行われた。「リハ工と看護・介護」というテーマを掲げ、3日間にわたり様々なセッションが行われた。

今回は車椅子関連を中心に多くのセッションが行われた。電動車椅子に必要なジョイスティックの提案や使用者の臀部形状に適応する座面のクッションの提案など、工学の視点から見た際の提案や開発が行われていた。また臨床での症例報告が行われた。

セッションの他にも福祉用具機器展や企業展示、市民公開講演、大学生企画も行われた。専門職の方だけではなく地域の方々の参加も数多くみられた。

今回のリハ工学カンファレンスを通して、様々な視点から見た福祉用具や車椅子に関する問題点を提案し、セッションを行うことで知識を共有し、お互いに学ぶことができたと感じられる。